

常磐新聞

刊夕日三月六

發行所 磐城平町字長橋町廿五番地
印刷所 川崎文治

和 漆器漆屋井久和

自由の雜誌が
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
平町長橋町三五
川崎巡文庫
(申込次第規則書進呈)

平町一丁目
番五〇四話電

常磐文藝

眞紅なローズ 茂

私を知って、私を知って、眞紅な、ローズよ、たとへ此の身が、この言葉が、お前をスポイルしやうと、お前に、話したいの、知つて戴きたいの、ローズよ、ローズよ、お前はなま黙つてゐるの。淋しい、淋しい、お前が應へないの、お、ローズよ、ローズよ、お前は、たしかに、微笑んだ (一九四五年)

江あばやき
戸うあ井

新築落成しました
相變らず御注文の際は
電話四二四番を
御利用下さい
御料理 魚榮
仕出し 魚榮
平町二丁目北裏通

獨逸高級眼鏡 (メニスカス) 問メニスレンジを何んで皆さんがお好みになるのです。鴛掛け心地が良くて眼や脳へは絶對弊害がなからず、晴々からです。常盤屋時計店 電話三三九番

古山印醬油

美味 經濟

鹽屋本店 電話七二番

元造 醸

ハーディング氏の 新聞道徳に就て (二) 門傳清吾氏 (寄)

自由言論の獨立なる事は必要には相違なれども之を爲政者の立場より見るに新聞界には自己の所信とは全然異りたる事を主張する者が非常に多き事を忘却するを得ず。而して斯る態度は常に正道に反するのみならず將來の新聞業に對し多大なる禍を爲すものなりと信するなり、一例を示すに自分を白亞館に訪問せし或記者の或者は盛に過剩利得税附加税等の國税を減すべしと論じたるも其日其の新聞

色川勝三郎商店

内 地 材 米松、樺太松、米杉、天井板
種 大谷石、産地一等品

色川勝三郎商店 磐城平町 電話三四一

美味しい團樂に 食後のコーヒに 粉末コーヒ 四半ポンド一罐入 金四十錢 (御便利な) コーヒ 一入角砂糖百々 三十五錢

目丁四町平 ヤトモツマ 四一二シモシモ 三一四六臺仙替振

にては該記者の所論とは全く反對せる主張を強硬に叫ぶが如きことあり。之吾人の執らざる處なり。若し自分をしてジャーナリズムの定義をなさせば『ジャーナリズム』とは『ニッス』を報導すると同時に該『ニッス』を忠實に解釋し其れに立脚し贊否の論をなす職業なり』と謂ふなり。易々たるニッスの供給のみにてはジャーナリズムに非ず。正眞なる新聞記者は自己の所論の基礎となるべき事實に對し不公平たるを許すべきにあらず。

「信賴」の出来る新聞「自分」の故郷オハイオの大都市にては略二個宛の大新聞が

對立し居るなり。一は其記事の煽動的なる点に於いて存在を有し他は報導所論共に堅實たるを以て讀者を有するなり。前者に於いては多くの讀者を有し企業として相當なる儲けあることなれども自分は斯る新聞より(企業と思はしくなくとも)其の堅實なる信賴し得る方を擇ぶものなり。其の記事の不正確なるは讀者に對し(故意にあらざるも)虚偽の印象を與へ延いては輿論を誤る方面に導くの批難あり而して新聞記事にして官廳の記録と同程度の正確を保ち得ざるの理由はなきが故に充分の考慮を要する點なりとす。

東新株 先限 丸登株式店
川添房二郎

株式賣買中值

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七三〇
磐城銀行	二二五	一〇五
磐城實業	三〇〇	二九五
田村實業	二二五	一七五
四倉銀行	一七五	二四五
農工銀行	二〇〇	一八八
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	二二五	一六〇
七七銀行	二二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三八五
同 新	二五〇	一八〇
只見川電	二二五	七三
植田水電	二二五	一五五
好間水電	二二五	一四五
磐城建物	二二五	一四〇
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
磐城勸業	二二五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二五〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三三五
入山新	三五〇	一七〇
小田炭礦	二五〇	一一〇
磐城炭礦	五〇〇	四三〇
同 新	二二五	一九〇
磐城セメント	五〇〇	六八〇
同 新	二二五	三七〇
平運送	一一五	八〇

發電所不當許可は 平町民激怒の的

町民大會を開く外 宣傳ビラにて輿論を涵起

昨報平町に於て發電所不當の士數名の演説あり縣當局許可問題に關し區長及び衛生區長會議を召集せる結果町民保健衛生に關する由々敷問題にて一日も是れを忽せしむべからざる爲し來る五日午後一時から松ヶ岡公園若し雨天の際は聚樂館に於て町民大會を開催し愛町

發電所に水を奪るれば 水道の源が甚だ汚れる

是れ町民保健の一大問題

水道技術者の談

水道水源地上流に發電所を設くる爲めに如何なる害毒を町民全體に及ぼすべきやに關し水道技術者の談に依れば「水道取入口の上流に於て 大部分の 水を奪れる爲め現在の如き勢のよい流水を見る事が出来なくなると結果微菌の繁殖力が旺盛になり水道の水質が不純なものとなり、現に最近の水質検査に依れば柳小屋の野尻から好間川に可成り太い灌漑用水が流れ込みます」 其處から 採取した水には千八百八十箇の微菌がうごめいて居ります夫れより少し細い中平の支流から流れ込んだのにも八百九十箇の微菌を認めました、是

たのであるに拘らず今回突如として縣當局が許可を與へたのは一營利會社の爲めに平三萬町民の生命を犠牲に供して平然たるものとも云ふべきは實に默視する事の出来ない重大問題なのであります」この事である

講師に

平町にて夏季講習會を開く

平町では八月中の夏季休暇を期し英漢數學の講習會を開催すべく目下警中同窓會長新田日春松氏等夫々計劃中であるが講師は本郡出身

農家好適の副業とし

石城郡にて荳の栽培

來年度から約百町歩を

各補習學校が試作

石城郡好間尋常高等小學校に於ては炭礦廢山後に於ける農村副業研究の一助として曩にその筋の許しを受け同村大字北好間の某耕地をトし葉煙草

若干を

試作に相當の成績を納めたるが由來石城地方は先年專賣法實施以前各地に於て之を栽培し相應の利益を得たる實例もありしがも貴の

栽培を

るものが収益比較的薄き憾あるも其確實性を有するに加へ冬期中老幼が屋内に於て之を精製處理し得る便あり即ち家内農業も稱すべく

して農家好適の副業なるに

害虫の 驅除を督勵

郡吏員出張

石城郡にては左記日割に依り郡吏員各町村に出張害虫驅除を督勵する由

- (七日) 植田、錦、泉、渡邊
- (八日) 江名、鹿島、神谷、平
- (九日) 山田、田人組合、湯本、磐崎、夏井、飯野、内郷
- (十日) 上遠野、入遠野、川前、赤井、平窪、小川
- (十一日) 大野、三阪

不平受付

毎月役場から月謝を受取りに行かぬはならぬ等と思ふが五月も既に過ぎましたのに未だ受取りに行かないと見まして家の子供は月謝を持ち返りました、こんな都合で何ヶ月もたまると納めるのも容易ではなくあります(一町民)

伏見助の答

徴收書の整理で行けなかつたさうですが五月には受取りに行つた筈ですからどうも何ヶ月もたつて置かぬ事はありませぬ、當方も充分注意はして置きます積りですが貴方も何かお考へ違へではありませぬか

演武大會の 優勝旗

好間村の手に

昨報帝國館に於ける演武大會の劍道優勝旗争奪戦は左の結果に依り 好間村七點、湯本町廿八點、内郷村廿四點、大野村廿二點、磐崎村廿點、玉川村廿點

- (一等) 本宮河野要八、(二等) 會津櫻木博、(三等) 福島川島保、(四等) 警中永瀬幸平、(五等) 夏井木田武一、(六等) 本宮茂木利一、(七

平町青年團の 思想講演

本多主筆を招き

平町青年團にては端午の節句に當る六日午後七時から磐城銀行樓上に於て思想講演會を開きいはらき新聞主筆本多文雄氏の講演ある筈であるが同氏は先年來平し現代思想界の大勢に關し約二時間に亘り詳細に是れを説述して聴衆に多大の感銘を與へた事ある爲め平町青年より非常な期待を受けて居る

弓道奨勵大會

平驛矢場にて

平町弓道奨勵會にては平驛構内の矢場竣工した爲め昨日午前九時から竣工披露弓道大會を開催石坂詮太郎氏の會計報告、飯田一二翁の弓道講話あつて大和流の廣木榮之助、高木源治、根本宗康の三氏及び本田流大久保貞吉、猪狩卓次郎、皆川久の三氏夫々射的を行つたが當日の優勝者は左の如し

- ▲金の(一光) 東源之助
- (二光) 根本宗康、(三光) 渡邊茂太郎、▲競射(一等) 廣本榮之助、(二等) 大久貞吉、(三等) 玉置升三郎、(四等)

今年のは

入梅が早い

既につゆ模様

入梅は平年六月中旬から始まるのだが兩二日來の氣壓の配置から見るともう既に入梅の状態である尤も今後どう變るか解らないし例年入梅の前にはかうした状態に入るのだから必ずしも入梅になつたとは云へないがこの調子で進んで行けば或は今年に入梅が早いかも知れないと(小名濱測候所 技手談)

學用品店の 生活を脅威

對策を協議

平町有志が兒童の學用品を統一し共同購入によつて父兄の負担を軽くするとの理由から組織した兒童保護會は加入者も多くなか、好成績に進んでゐるが平町の學用品店八名はこの事を以て生活を脅威されること反對し町有志もこれに同情するものさへあり、これ等の八商店では一昨一日午後八時から平町石川亭で會し對抗策について協議した